

水の事実

曾爾村立曾爾中学校 三年

橋詰 奈央

「もー。また水出しっぱなしにして使ってる。」
母が食器洗いを手伝っていた私に言った。私はよく夕食後、食器洗いを手伝う。だが、いつも水を出しっぱなしにして洗う。その方が早く食器洗いが終わるからだ。
「もったいないやろ。水道代かって、ただと違うねんで。」
母にそう言われ、しぶしぶ私は蛇口を閉める。やはり、お金のことを言われると、水もムダにはできない。最近は何も上がって来ておき、お金を節約する時代だ。我が家も節約をよくする。だから母に言われた時は、お金がかかるからという理由だけで水を大切にしなければならぬという勝手な解釈をしていた。

数日後、学習能力のない私はまた同じことをした。
「水道代ただと違うって何べん言ったら分かるの。」
母の怒声がとんだ。長い説教が始まる。母に怒られている間、私はふと思った。もったいないのはお金だけなのか？水、安全な水ってたくさんあるのか？水はもったいないのだらうか？疑問に感じた私は世界にある安全な水について調べてみた。
すると、次のようなことが分かった。世界中には安全な水を使える国など数えるくらいしかないこと。日本はその中でも安全な水を使えている方であるということ。地球には一見たくさんある水があるようだが、実際飲み水や安全に使える水は極わずかだ。世界の人々は工場から出る化学物質で水が汚染されたり、

洪水や水不足が原因で安全な水が使えないそうだ。私はこの事実を知った時ショックを受けた。この世界にきれいな水は思っていたよりも少なかったからだ。さらに調べていくと、世界では水が原因で死んでいく人の数が最も多いということが分かった。八秒に一人の子供が水が原因で死んでいくという。私は後悔した。今まで食器洗いの際、ムダにできた水でどれだけの子供達の命を救えることができただろう。食器洗いの時以外の場面でも水をムダにしてきた。私はしばらく反省した。水を安易に使える環境にいて、それをごく当たり前のように何も考えもしないで水を使っていた自分を恥じた。

日本は水が豊富だから、水なんてただみないなものだと思っっている人も多いと思う。現に私もそうだった。確かに日本は水に関してはいよい環境に恵まれていて。だが、世界を見てみると、安全な水を使えない国がほとんどだ。だから、単に、水を使うというのではなく、そういうことを考え、日本に住んで安全に水を使うことができることに感謝の気持ちを付けて使わなければならぬと思う。そして、

少しでも水のムダを減らしていくべきだ。

今までの、様々な場面で水をムダにしていた私だが、水のことに関して調べてみて、水に對しての視点がガラリと変わった。コップ一杯の水でも、命が救えるという重さを感じ、これを使うことができることにありがたさを忘れてはならない。私達は安全な水がたくさんあって生きていられる。その事実を心に刻み、感謝しながら、これからは水を大切に使用していこうと思う。そしてその事実を多くの人が知って考えるべきだと思う。

「お母さん、食器洗い手伝わして。今度はちゃんと水大切にすから。そうそう、水ってむっちゃや大事やねんで。なぜかというとな…」

私は楽しくおしゃべりをし、水をムダにしないよう食器洗いを手伝った。水に対する感謝の気持ちもつけながら。